

「全国みどりと花のフェアかつしか」
基本計画

令和6（2024）年9月
葛飾区

目次

第1章 全体概要	7
1-1 趣旨	7
1-2 開催の背景	7
1-3 『全国「みどりの愛護」のつどい』の開催	7
1-4 開催テーマ	7
第2章 葛飾区の現況	8
2-1 地理的特徴・観光資源・産業状況・文化遺産等	8
(1) 地理的特徴	8
(2) 観光資源	9
(3) 産業状況	10
(4) 文化遺産	11
(5) 主な行催事	12
2-2 葛飾区基本構想、基本計画、環境基本計画等からみるまちづくりの方向性	14
(1) 葛飾区基本構想	14
(2) 葛飾区基本計画・実施計画	14
(3) 第3次環境基本計画	16
(4) SDGs への対応	18
2-3 花いっぱいのもちづくり活動と本フェアの取組の方向性	19
(1) 花いっぱいのもちづくり活動の現状	19
(2) 花いっぱいのもちづくり活動と本フェアの取組の方向性	22
第3章 事業方針	23
3-1 考え方	23
(1) 本フェアとまちづくりの位置づけ	23
(2) みどりと花のミライまちづくり	24
(3) 最新のテクノロジー	25
3-2 事業方針	26
3-3 ステークホルダーの役割と本フェアのレガシー	27
(1) ステークホルダーの役割	27
(2) 本フェアのレガシー	28
第4章 基本計画内容	29
4-1 開催会場	29
(1) 開催エリア	29
(2) 堀切菖蒲園	29
4-2 開催期間	29
4-3 『全国「みどりの愛護」のつどい』	29
4-4 来場者数（予測値）	29

第5章 会場計画	31
5-1 考え方	31
5-2 会場構成	31
(1) メインエリア.....	33
(2) こち亀エリア.....	34
(3) 翼エリア	34
(4) 寅さんエリア.....	34
(5) モンチッチエリア.....	35
(6) 堀切菖蒲園	35
5-3 「まちなか花いっぱいプレイス」	35
(1) 区民の花壇	35
(2) 区内の花の名所.....	35
5-4 エリア間の連携.....	36
第6章 出展展示計画	37
6-1 考え方	37
6-2 主催者展示	37
6-3 協働展示	39
第7章 行催事計画	40
7-1 考え方	40
7-2 主たる行事	40
(1) 『全国「みどりの愛護」のつどい』	40
(2) オープニング&クロージングセレモニー	40
(3) プレイベント.....	41
7-3 区民参加型の催事.....	42
(1) 区内回遊型プログラム	42
(2) ワークショップ型プログラム.....	42
(3) 企業連携型プログラム	43
(4) 文化・教育プログラム	44
(5) 参加体験型プログラム	45
(6) キャラクター関連イベント	45
(7) 公用地中心プログラム	46
(8) マルシェ型プログラム	47
第8章 会場運営計画	48
8-1 考え方	48
8-2 運営体制	48
(1) 多様な主体による運営	48
(2) 環境に配慮した運営	48
8-3 会場管理・リスクマネジメント.....	49

(1) 警備計画	49
(2) 消防・防災計画	49
(3) 医療・救急・衛生計画	49
(4) 清掃・リサイクル計画	49
第9章 広報宣伝計画	50
9-1 考え方	50
9-2 フェーズごとのコミュニケーション活動	50
(1) フェア開催前	50
(2) フェア開催中	50
(3) フェア閉会后	50
9-3 コミュニケーションツール	51
(1) 公式ロゴマーク等の制作	51
(2) 公式マスコットの制作	51
(3) 公式アンバサダーの検討	51
(4) メディアを活用した認知拡大	51
(5) 様々なコミュニケーション機会の活用	51
第10章 調達計画	52
10-1 考え方	52
10-2 植物調達計画	52
(1) 花苗の育成・収穫	52
(2) その他主な調達ルート	54
(3) 区民参加の仕組み	54
10-3 関連資材調達計画	55
第11章 交通輸送計画	56
11-1 考え方	56
11-2 都市型イベントとしての対応	56
11-3 会場へのアクセス計画	57
(1) メインエリア	57
(2) こち亀エリア	57
(3) 翼エリア	57
(4) 寅さんエリア	57
(5) モンチッチエリア	57
11-4 エリア間の移動	57
第12章 協働推進計画	58
12-1 考え方	58
12-2 多様な主体との協働	58
12-3 活動基盤の構築	58
(1) 花のお手入れの仕組みづくり	58

(2) ICTを利用したコミュニティ運営	59
第13章 飲食・物販計画	60
13-1 考え方	60
13-2 特産物・特産品の販売	60
13-3 「みどりと花」に関する物販計画	60
13-4 飲食・物販における取組展開	62
(1) 安全・安心に向けた取組	62
(2) 地産地消に向けた取組	62
(3) 環境に配慮した取組	62
第14章 事業推進計画	63
14-1 考え方	63
14-2 事業推進体制の構築	64
(1) 実行委員会の設置	64
(2) 事務局の設置	64
14-3 全体スケジュール	64
第15章 事業効果の検証方法	65
15-1 考え方	65
15-2 効果検証方法（案）	65
(1) 効果検証の手法（案）	65
(2) 効果検証の項目（案）	66

第1章 全体概要

1-1 趣旨

国、東京都等の関係自治体、地域住民及び事業者等との連携・協働により、葛飾区が初めての開催となる新たな緑花イベント「全国みどりと花のフェアかつしか」（以下「本フェア」という。）を、令和8（2026）年度に開催します。また、本フェアの開催期間中には、毎年、全国の自治体を巡って開催されている『全国「みどりの愛護」のつどい』を開催します。

1-2 開催の背景

葛飾区では、みどりと花を通してコミュニティの活性化を図る「花いっぱいのもちづくり推進プロジェクト」を推進しています。本フェアの開催は、この取組を内外に発信することはもとより、本フェアの開催をきっかけに、『みどりと花で人と人がつながり様々な課題を解決する、葛飾区ならではの新しいまちづくりの形』を未来につなげていくことを目指しています。

1-3 『全国「みどりの愛護」のつどい』の開催

全国の緑の関係者が一堂につどい、広く都市緑化意識の高揚を図り、緑豊かな潤いのある住みよい環境づくりを推進するとともに、緑を守り育てる国民運動を積極的に推進することを目的に、平成2（1990）年から毎年1回、全国の自治体を巡って開催しており、本フェアの開催期間中に、葛飾にいじゅくみらい公園及び隣接する東京理科大学の施設において開催します。

1-4 開催テーマ

本フェアの開催テーマは次のとおりとなります。

未来に向け成長する みどりと花のまち かつしか

本フェアを契機に、みどりと花を通して、人と人とが交流し、絆を深め、強いコミュニティを形成することで、様々な社会課題を解決し、持続可能で発展し続ける、葛飾区ならではのまちづくりを推進する。

第2章 葛飾区の現況

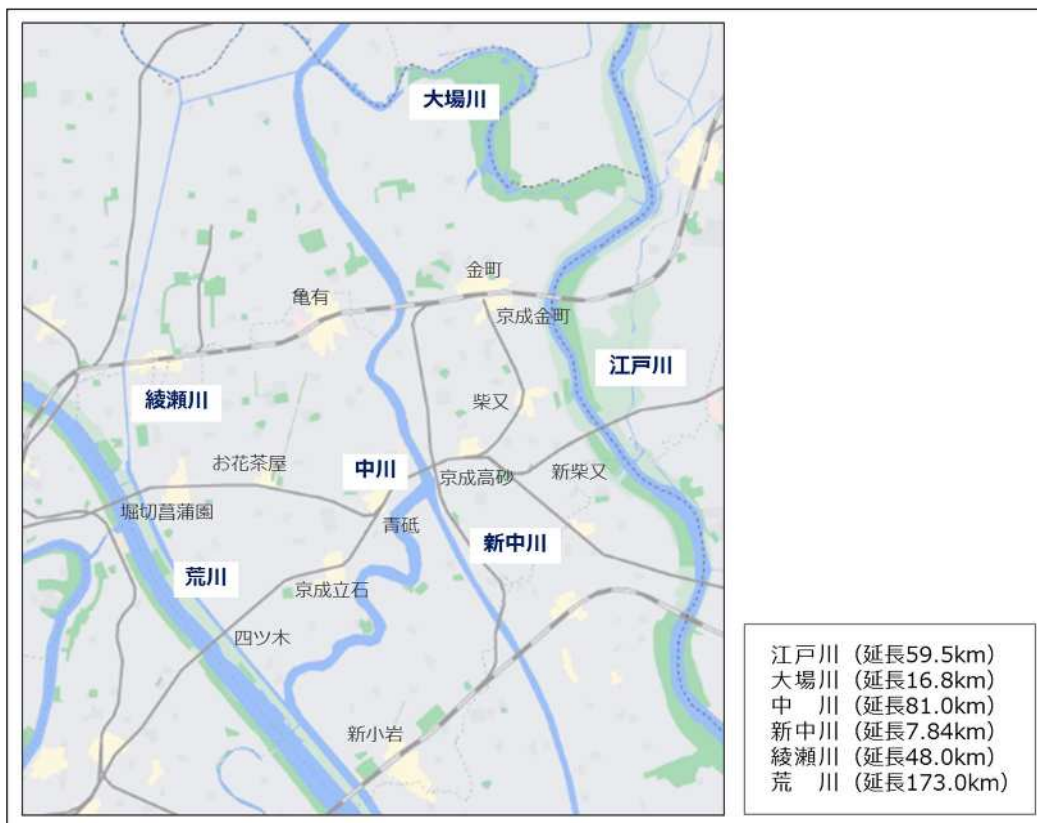
2-1 地理的特徴・観光資源・産業状況・文化遺産等

(1) 地理的特徴

葛飾区は、利根川流域に位置しており、利根川流域の地形は、東・北・西の三方を高い山地に囲まれ、南東側だけが関東平野に連なる低地になっています。そのため、葛飾区は、全体的に標高が低く平坦な地形をしていて、東部は高く、南西部が低くなっており、区の半分近くが東京湾の海面より低いゼロメートル地帯となっています。

また、葛飾区は、荒川、江戸川、大場川が区の境をなしているほか、中川、新中川、綾瀬川が区内を流れており、比較的身近な場所に水辺が多く存在しています。

図 2.1.1 葛飾区の河川



(2) 観光資源

本区は、映画『男はつらいよ』、漫画『こちら葛飾区亀有公園前派出所』、『キャプテン翼』、『モンチッチ』、『リカちゃん』などの区ゆかりのキャラクターや堀切菖蒲園※、都立水元公園、江戸川や荒川河川敷などの自然といった豊かな観光資源に恵まれています。また、日本を代表する景観地として、国の重要文化的景観に選定された「葛飾柴又の文化的景観」や、江戸の昔から人々を魅了した花菖蒲が美しい堀切菖蒲園のほか、神社、仏閣、名木等が区内で文化財に指定されており、これらも区の誇る観光資源となっています。

写真 2.1.1 堀切菖蒲園



※：堀切菖蒲園

江戸時代、堀切の地に観光名所としての花菖蒲園が誕生し、以来、この地域にいくつかの花菖蒲園が栄えました。現在の堀切菖蒲園は、戦後唯一復興を果たした「堀切園」の一部が母体となっています。

江戸古花を中心に約200種、6,000株の花菖蒲が植えられており、見ごろを迎える5月下旬から6月中旬には、都立水元公園とともに「葛飾菖蒲まつり」が開催され、葛飾区の観光名所の一つとなっています。また、区の文化財にも指定されています。

(3) 産業状況

葛飾区の産業の現況は、「卸売業・小売業」「製造業」が売上高で大きな割合を占めています。これは、葛飾区が明治以降、工業が盛んになっていったという歴史によるものです。明治5（1872）年に小菅に煉瓦工場が設立され、大正3（1914）年には国内で初めてセルロイド工場が設立、玩具や日用品等が生産されます。そして、大正6（1917）年には製紙工場や化学工場等の大規模工場が建設されました。

また、河川の多い葛飾区ならではの河川水を活用していた染色工業が発展し、着物地となる江戸小紋や長板中型（浴衣）等の染色の技術は現在にも受け継がれています。

江戸時代から昭和30（1955）年代頃まで、当時の江戸・東京は世界トップクラスの人口となっており、その江戸・東京の食生活を葛飾産の野菜が支えていました。葛飾区は現在も23区の中で農業が存続している数少ない区の一つであり、区内で生産された野菜は「葛飾元気野菜」として販売されています。

写真 2.1.2 千種セルロイド工業発祥地



写真 2.1.3 三菱製紙中川工場跡地（地球釜）



(4) 文化遺産

葛飾区には、国指定の重要無形文化財である江戸小紋、国選定の重要文化的景観である葛飾柴又等、多くの文化財が存在しています。葛飾区内の文化財等の件数は、国指定文化財（3件）、国登録文化財（1件）、国選定保存技術（1件）、東京都指定文化財（12件）、葛飾区指定文化財（94件）、葛飾区登録文化財（104件）となっています。

[令和6（2024）年4月1日現在]

また、葛飾区には、前述の江戸小紋のほか、江戸切子、江戸木彫刻、打刃物、印伝等の伝統産業があり、その種類の多様さも大きな特徴となっています。そのため、区内には、江戸・明治時代から伝統的な技術を継承している職人や匠が多く在住しています。

その他にも、葛飾区が工場地帯として発達を遂げていたことから、葛飾区内には、製紙工場やセルロイド工場などの跡地に、その歴史を紹介するモニュメントがあります。

写真 2.1.4

葛飾区的主要な伝統工芸品（江戸小紋）

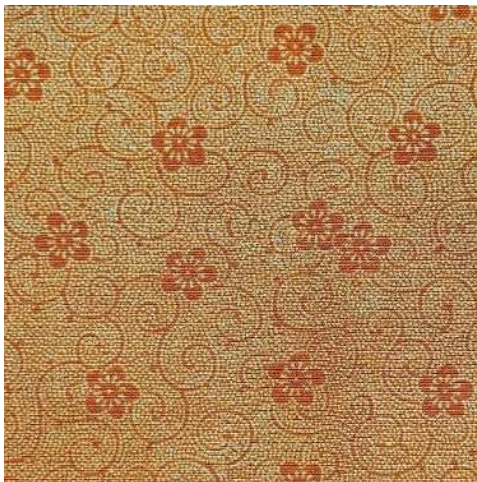


写真 2.1.5

葛飾区的主要な伝統工芸品（江戸切子）



(5) 主な行催事

葛飾区では年間を通じて様々な行催事が開催されており、区内外から多くの人を訪れています。

主な行催事は、「葛飾納涼花火大会」「葛飾菖蒲まつり」「葛飾区産業フェア」「寅さんサミット」「かつしかフードフェスタ」「かつしか肉フェスタ」「葛飾区伝統産業職人会まつり」「かつしか環境・緑化フェア」等となっています。

表 2.1.1 葛飾区の主な行催事

No.	時期	名称	場所
1	4月下旬	葛飾区子どもまつり/子どもつり大会	都立水元公園
2	5月中旬	葛飾区伝統産業職人会まつり	テクノプラザかつしか
3	5月頃	柴又フロリズ通りフェスティバル	柴又フロリズ通り
4	5月下旬～6月中旬	葛飾菖蒲まつり	堀切菖蒲園/都立水元公園
5	6月上旬	かつしか環境・緑化フェア	テクノプラザかつしか
6	7月下旬	葛飾納涼花火大会	葛飾区柴又野球場(江戸川河川敷)
7	7月下旬	新小岩えきひろフェスティバル	新小岩南口駅前広場
8	9月上旬	ふるさと葛飾盆まつり	葛飾にいじゅくみらい公園
9	9月下旬～10月上旬	かつしか肉フェスタ	葛飾区全域/葛飾にいじゅくみらい公園
10	10月中旬～下旬	葛飾区産業フェア	テクノプラザかつしか
11	10月下旬	新小岩駅東北ひろばまつり	新小岩駅東北広場
12	11月上旬	寅さんサミット	帝釈天参道/寅さん記念館/山本亭/特設会場
13	11月中旬	かつしかフードフェスタ	新小岩公園
14	12月上旬～2月下旬	ライティング・コラボレーションかなまちかなまちイルミネーション	JR金町駅周辺/理科大通り
15	12月上旬～2月下旬	おいでよ亀有 ウィンターイルミネーション	JR亀有駅周辺
16	12月上旬～2月中旬	きらめきの街・新小岩イルミネーション	JR新小岩駅 北地域・南地域
17	12月中旬	ライティング・コラボレーションかなまちふるさと・クリスマスマーケット	JR金町駅周辺
18	1月中旬	堀切大凧揚げ大会	荒川河川敷/堀切水辺公園
19	1月中旬	キャプテン翼CUPかつしか	奥戸総合スポーツセンター/水元総合スポーツセンター
20	2月上旬	おいでよ亀有 Winter Festival	亀有公園/亀有リリオパーク
21	3月上旬	かつしかふれあいRUNフェスタ	堀切水辺公園

写真 2.1.6 葛飾区的主要な行催事（葛飾納涼花火大会）



写真 2.1.7 葛飾区的主要な行催事（葛飾菖蒲まつり）



写真 2.1.8 葛飾区的主要な行催事（寅さんサミット）



2-2 葛飾区基本構想、基本計画、環境基本計画等からみるまちづくりの方向性

(1) 葛飾区基本構想

葛飾区は、令和3（2021）年に葛飾区基本構想（以下「基本構想」という。）を策定し、その基本構想を実現するために、令和3（2021）年度から令和12（2030）年度までを計画期間とする葛飾区基本計画（以下「基本計画」という。）を策定しました。

基本構想では、「人権・平和・多様性の尊重」「持続的な発展」「協働によるまちづくり」を理念として掲げ、葛飾区の将来像として、「みんなでつくる、水と緑と人情が輝く 暮らしやすいまち・葛飾」と定め、緑や親水、協働を大きな柱として位置付けています。

表 2.2.1 基本構想の理念

人権・平和・多様性の尊重	持続的な発展	協働によるまちづくり
--------------	--------	------------

表 2.2.2 本区の将来像

みんなでつくる、水と緑と人情が輝く 暮らしやすいまち・葛飾

(2) 葛飾区基本計画・実施計画

ア. 基本計画

基本計画では、「夢と誇りあるふるさと葛飾の実現」と「区民との協働による、いつまでも幸せに暮らせるまちづくり」を基本方針として掲げています。

この基本方針に基づき、少子高齢化の進行に対する持続的なまちづくりのために、区民、事業者、団体等、このまちに集う多様な主体が、「葛飾区を良いまちにしていこう」という思いを共有しながら、協働によるまちづくりを進めています。

表 2.2.3 基本方針

1	夢と誇りあるふるさと葛飾の実現
2	区民との協働による、いつまでも幸せに暮らせるまちづくり

イ. 実施計画

令和6（2024）年度から令和9（2027）年度に取り組む具体的な事業内容を年次計画として明らかにした葛飾区中期実施計画（以下「中期実施計画」という。）では、区政を取り巻く環境の変化や地域課題に即応した政策を着実に展開していくため、16の「葛飾・夢と誇りのプロジェクト」を掲げ、取組を推進しています。

表 2.2.4 葛飾・夢と誇りのプロジェクト

1	協働推進プロジェクト
2	「健康長寿のまち、葛飾」推進プロジェクト
3	共生社会実現プロジェクト
4	「子育てするなら、葛飾で」推進プロジェクト
5	学力・体力向上プロジェクト
6	危機対応力向上プロジェクト
7	安全・快適な交通環境実現プロジェクト
8	「ゼロエミッションかつしか」実現プロジェクト
9	花いっぱいのもちづくり推進プロジェクト
10	産業応援プロジェクト
11	「観光・文化のまち葛飾」推進プロジェクト
12	公共施設の魅力向上プロジェクト
13	かつしかファンド活用プロジェクト
14	スマートかつしか実現プロジェクト
15	葛飾かわまちづくりプロジェクト
16	私学事業団総合運動場活用プロジェクト

【本フェアと関連するプロジェクト】

- ・「ゼロエミッションかつしか」実現プロジェクト

「ゼロエミッションかつしか」実現プロジェクトでは、脱炭素社会の構築を目指し、太陽光パネルの導入の促進や、資源のリサイクルの推進などにより、気候変動対策の取組を進めています。

- ・花いっぱいのもちづくり推進プロジェクト

花いっぱいのもちづくり推進プロジェクトでは、花いっぱいのもちづくり活動を更に推進するため、活動に取り組む団体への支援や花いっぱいのもちづくりを推進している自治体との交流などに取り組んでいます。

- ・葛飾かわまちづくりプロジェクト

葛飾かわまちづくりプロジェクトでは、水辺を舞台としたにぎわいまちづくりのため、水辺の散策路となるテラス、災害時だけでなくイベントにも活用できる船着場の整備などにより河川空間のにぎわいの創出を図るとともに、葛飾区が誇るキャラクターや区ゆかりのコンテンツを活かした装飾、河川景観や花を活かした新たなスポットなどの魅力ある河川空間の整備などの取組を進めています。

(3) 第3次環境基本計画

第3次環境基本計画（以下「本計画」という。）は、葛飾区的环境に対する考え方を明らかにするとともに、基本構想に示された将来像「みんなでつくる、水と緑と人情が輝く 暮らしやすいまち・葛飾」を環境面から補完する位置付けで策定されています。

ア. 基本理念

私たちは、大気や水、ごみ、生きものなどの暮らしに身近な環境問題から、地球温暖化といった世界的な環境課題、大型台風の上陸や猛暑などの気候変動やウイルスによる感染症拡大といった、これまで経験したことのない新たな環境問題にも、オールかつしかで力を合わせて乗り越える必要があります。

私たちが将来にわたって安心して幸せな生活を送り、事業活動のさらなる充実を図っていくためには、社会経済活動やライフスタイル・ビジネススタイルを振り返りながら、区民・事業者・区の連携・協働によって、経済・社会・環境の3側面での統合的向上を図り、次世代へ継承する自然環境の恵み豊かな持続可能なまちをつくります。

イ. 望ましい将来像

本計画では、基本理念を実現するための将来的な区の在り方を示す、長期目標として「望ましい将来像」を設定しています。

みんなで作る 人や自然にやさしく持続可能なまち かつしか

ウ. 5つの基本目標

本計画では、基本理念に基づいて将来的な区の在り方を示す望ましい将来像である「みんなで作る 人や自然にやさしく持続可能なまち かつしか」を実現するための目標として、区の現状を踏まえ、5つの基本目標を設定しています。

表 2.2.5 5つの基本目標

基本目標 1	オールかつしかの連携・協働
基本目標 2	気候変動に対するさらなる取組の強化
基本目標 3	資源循環型地域社会の形成
基本目標 4	多様な生きものとの共生
基本目標 5	誰もが健康で快適に住み続けられるまち

(4) SDGs への対応

平成 27 (2015) 年 9 月の国連サミットにおいて「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が採択され、その中で、令和 12 (2030) 年を期限とする「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals) (以下「SDGs」という。)) として、持続可能な世界を実現するための 17 の目標 (ゴール) と 169 のターゲットが掲げられています。

本区では、SDGs の実現に向けて施策の総合的な推進を図るため、区長を本部長とする葛飾区 SDGs 推進本部を設置し、葛飾区 SDGs 推進計画を策定したほか、基本計画や各個別計画への SDGs の反映、区民・事業者等に向けた普及啓発等、全庁を挙げて様々な取組を展開し、誰もが幸せに暮らせる「持続可能な葛飾」の実現を目指していきます。



2-3 花いっぱいのもちづくり活動と本フェアの取組の方向性

(1) 花いっぱいのもちづくり活動の現状

まちにみどりと花を増やすことは、憩いや安らぎに加え、環境意識の向上、対話や交流の促進にもなり、持続可能なまちづくりにつながることから、葛飾区は、まちをみどりと花で彩る「花いっぱいのもちづくり推進プロジェクト」（以下「本プロジェクト」という。）を通じて、みどりと花をきっかけに人と人とのつながりを強化しています。

各家庭でのみどりと花の育成を支援するサポーター制度を通じた「魅せるまち」への意識の醸成や、関係団体、事業者等の協働により、本プロジェクトの活動のさらなる拡大を目指しています。

また、フラワーメリーゴーランド^{※1}やフラワーキャンバス^{※2}等、独自に開発した立体花壇を利用した公共空間への花の新たな展開方法の啓発活動も行っています。

※1：フラワーメリーゴーランド

水道設備や電気設備が備わっていないところでも自動で植物に水やりができる立体花壇のこと
区内で花壇活動など花にかかわる団体や事業者、区が参加する「かつしか花いっぱいのもちづくり推進協議会」で、公共空間への花の新たな展開方法を具体化するためにプロジェクトチームを立ち上げ考案した

※2：フラワーキャンバス

上記のフラワーメリーゴーランドの技術を活かした壁面型花壇のこと

写真 2.3.1

フラワーメリーゴーランド（亀有駅南口）



写真 2.3.2

フラワーキャンバス（葛飾区総合庁舎）



写真 2.3.3

花いっぱいのもちづくり推進プロジェクト（公園）



写真 2.3.4

花いっぱいのもちづくり推進プロジェクト（沿道）



写真 2.3.5

花いっぱいのもちづくり推進プロジェクト（小中学校）



写真 2.3.6

花いっぱいのもちづくり推進プロジェクト（駅周辺）



写真 2.3.7 花いっぱいのもちづくり推進プロジェクト（各家庭）



図 2.3.1 「かつしか花いっぱいのまちづくり」活動マップ



表 2.3.1 花いっぱいのまちづくり活動支援制度等

No.	支援制度等名称	問い合わせ先
1	環境美化地区支援	地域振興課
2	緑と花のまちづくり推進事業	環境課
3	高齢者クラブ助成	地域包括ケア担当課
4	歩道植樹帯・植樹柵内花壇	道路補修課
5	地域開放型花壇	公園課
6	花いっぱい花壇	公園課
7	葛飾あらかわ花いっぱい事業	公園課
8	学校地域応援団	地域教育課
9	わがまち楽習会	生涯学習課
10	生涯学習援助制度	生涯学習課

出典：<https://www.hanaichi-katsushika.jp/outline/system.php>

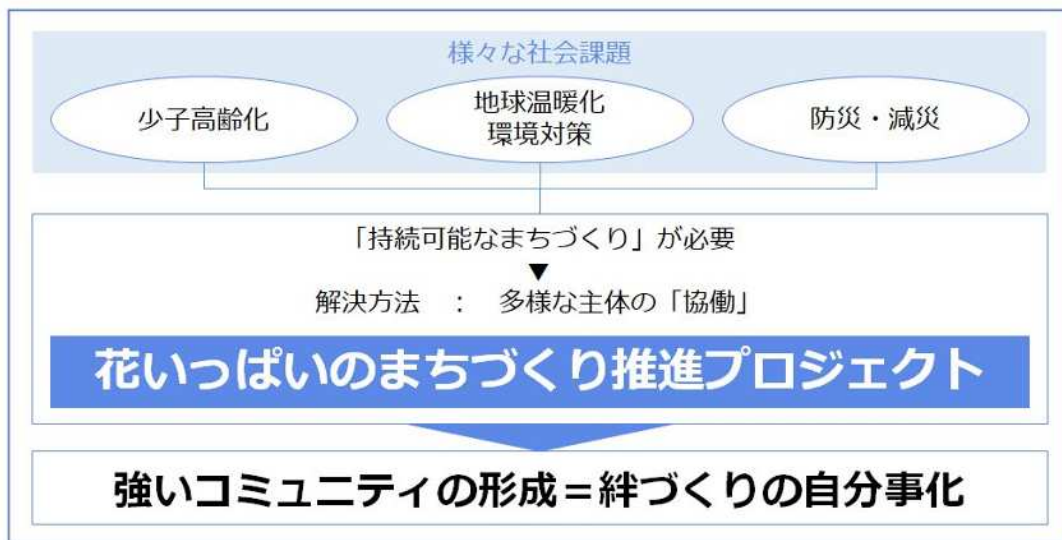
(2) 花いっぱいのもちづくり活動と本フェアの取組の方向性

今後は、花いっぱいのもちづくり活動の担い手の裾野を広げるため、フラワーイベントの開催等の各団体への活動支援に加え、個人や家庭への支援を拡充するとともに、他自治体と交流・連携することで、花いっぱいのもちづくり活動のさらなる活性化にも取り組んでいきます。

また、引き続き緑化を推進し、身近な緑の保全や緑化計画の届出、緑化に対する支援を行い、みどりや花を身近に感じられるまちをつくることを目指しながら、花いっぱいのもちづくり活動の拡大・支援の充実や、区内外における「フラワーメリーゴーランド」の設置拡大を図ります。

本フェアを開催するに当たっては、葛飾区ならではの地域資源を活かした取組を通じて生まれる強いコミュニティ形成や絆づくりの自分事化を行い、様々な社会課題の解決を目指します。

図 2.3.2 花いっぱいのもちづくり活動と本フェアの取組の方向性



第3章 事業方針

3-1 考え方

(1) 本フェアとまちづくりの位置づけ

葛飾区は、基本構想、基本計画及び中期実施計画や各種計画の推進により、区が掲げる将来像「みんなでつくる、水と緑と人情が輝く 暮らしやすいまち・葛飾」の実現に向けて、着実に進展しています。本フェアでは、葛飾区のよりよい未来に向けて、「みどりと花」を通じた地域コミュニティの活性化や絆づくりの自分事化を行うため、ソフト面からのアプローチ方法を様々な角度から検討し、実証していきます。

本フェアで展開するソフト面からのアプローチを中心としたまちづくりを「みどりと花のミライまちづくり」と表すこととし、本フェアの事業方針と位置付けます。

写真 3.1.1 中川親水テラス

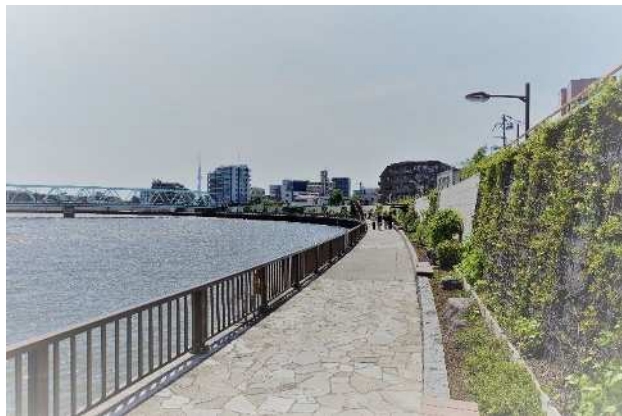


写真 3.1.2 葛飾にいじゅくみらい公園



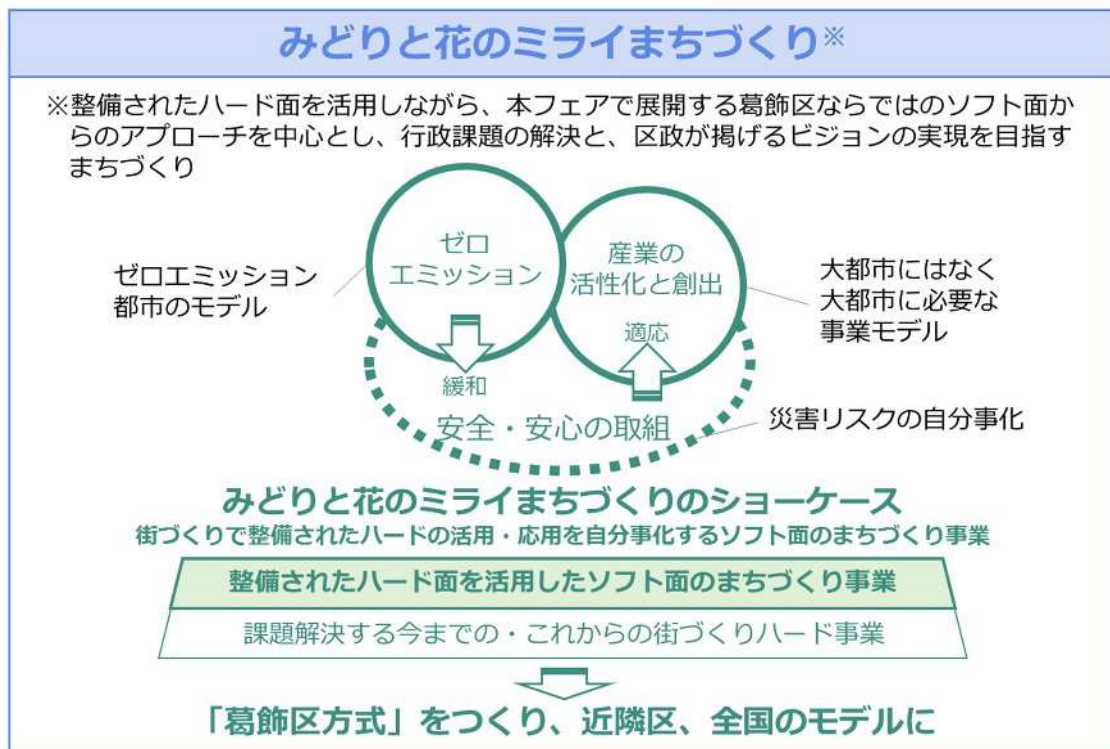
(2) みどりと花のミライまちづくり

「みどりと花のミライまちづくり」では、葛飾区ならではのソフト面からのアプローチにより、SDGsの実現や様々な社会課題の解決、区政が掲げるビジョンの実現を目指します。

区政が掲げるビジョンとして重要な「ゼロエミッションの推進」「産業の活性化と創出」を中心に、河川に囲まれた葛飾区の基盤政策ともいえる「安全・安心のまちづくり」の取組を進めます。

これらの取組をショーケースとして「みどりと花のミライまちづくり」のモデルをつくり、「葛飾区方式」として近隣区や全国にアピールします。

図 3.1.1 みどりと花のミライまちづくり



(3) 最新のテクノロジー

「みどりと花のミライまちづくり」の実現に向け、最新テクノロジーを活用して3つの課題「ゼロエミッションの推進」「産業の活性化と創出」「安全・安心のまちづくり」に取り組みます。

その3つの課題に共通する都市部での「発電と蓄電のオフグリッド化」「炭素貯留」「みどりと花の生産と仕組みづくり」を、区民向けにショーケースとして提案します。加えて、これらの基盤となる「防災にもつながる安全・安心のまちづくり」を「みどりと花が結ぶコミュニティ」と「最新のテクノロジー」の融合で区民に自分事として捉えてもらうことを提案していきます。

上記の最新テクノロジーや仕組みの中で、本フェアを通じて実証実験可能なものは実施し、「みどりと花のミライまちづくり」を支えていくことができるものはフェア閉会後も継続させることで、「未来に向け成長する みどりと花のまち かつしか」を推進していきます。

また、本フェアを盛り上げる行催事には、情報通信系の最新テクノロジーを用いていきます。葛飾区を大きな会場と捉え、メイン会場やサテライト会場等の物理的な距離を埋める様々な最新テクノロジーの導入や、AIアシスタント技術により来場者の趣向に合わせた案内サポートを可能にする最新テクノロジーの導入を検討します。

これらの最新テクノロジーについては、次世代のICT基盤として期待される「IOWN構想」※の実現も見据え、コミュニティの強化やそれによる社会課題解決という、葛飾区が独自に目指すまちづくりを中長期視点で支えていくものとして位置付けます。

※：IOWN構想

IOWN (Innovative Optical and Wireless Network) 構想とは、あらゆる情報をもとに個と全体との最適化を図り、多様性を受容できる豊かな社会を創るため、光を中心とした革新的技術を活用し、これまでのインフラの限界を超えた高速大容量通信ならびに膨大な計算リソース等を提供可能な端末を含むネットワーク・情報処理基盤の構想のことで、2024年の仕様確定と2030年の実現を目指して研究開発を始めている

NTT HP より引用 : <https://www.rd.ntt/iown/>

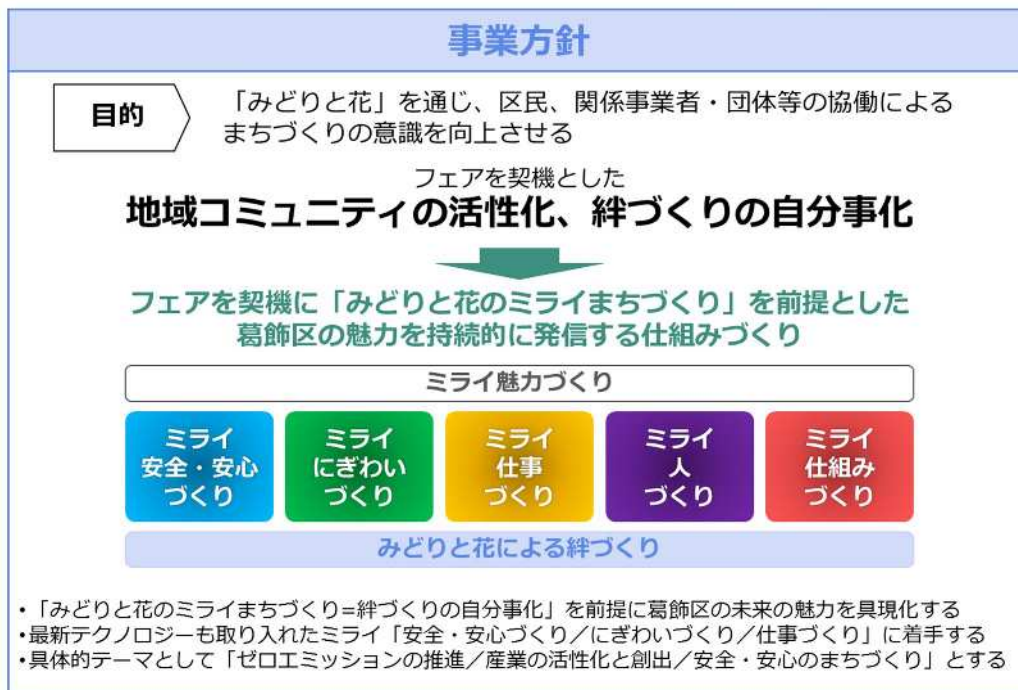
3-2 事業方針

「みどりと花」を通じ、区民、関係事業者・団体等の「協働によるまちづくり」の意識を向上させるために、本フェアを契機とした地域コミュニティの活性化、絆づくりの自分事化を行っていきます。

さらに、本フェアを契機に「みどりと花のミライまちづくり」を前提とした葛飾区の魅力を持続的に発信するための仕組みづくりも目指します。

『葛飾区の魅力を持続的に発信する仕組みづくり』とは、「ミライ安全・安心づくり」「ミライにぎわいづくり」「ミライ仕事づくり」「ミライ人づくり」「ミライ仕組みづくり」の5つの分野を設定し、それぞれの分野で魅力づくりを推進する仕組みづくりを行うことを指します。

図 3.2.1 事業方針



本フェアは、「みどりと花」を主題に掲げるものです。また、これまでの葛飾区の取組として行ってきた「花いっぱいのもちづくり推進プロジェクト」は、葛飾区民や、区外から葛飾区を訪れる人が、それぞれの幸福を体現するとともに、花のお手入れや環境整備活動を通じて、人と人とのつながりを維持し、保持・拡大していくものです。これは、地域のコミュニティを強化し、葛飾区民や葛飾区にかかわる人々が、「ミライ魅力づくり」にかかわっていくことでもあります。本フェアの開催に当たっては、「みどりと花」を起点とする葛飾区ならではのまちづくりを推進していきます。

3-3 ステークホルダーの役割と本フェアのレガシー

(1) ステークホルダーの役割

事業推進に当たっては、区民及び関係団体等が参画しやすい仕組みの検討を行います。オールかつしかで開催する本フェアには、区民はもちろんのこと、区内の各種関係機関、事業者や団体等が、手を挙げれば参画することができるよう、様々な領域の受皿を用意します。

表 3.3.1 様々な領域の受皿（案）

様々な領域の受皿（案）
区外からの来街者のおもてなし
イベント会場の盛り上げサポート
寄付や協賛
花装飾の制作や維持・お手入れ
来街者・来場者の安全な回遊サポート

また想定されるステークホルダーは次のとおりです。

表 3.3.2 想定されるステークホルダー

想定されるステークホルダー
区民
ボランティア
地元企業・団体
教育機関
関係省庁
関係機関

(2) 本フェアのレガシー

本フェアの終了後、「葛飾区のミライ」に遺していくレガシーは次のとおりです。本フェアにおける各種取組を通じて、未来の葛飾区にレガシーとして引継ぎ遺していくものとなります。

表 3.3.3 「葛飾区のミライ」に遺していくレガシー

	「葛飾区のミライ」に遺していくレガシー
1	強いコミュニティの形成
2	花の拠点の定着
3	ショーケースの実用化

また、次の開催地へ脈々とつないでいくレガシーは次のとおりです。初開催の葛飾区をモデルとして、本フェアの取組を新しい「まちづくり」の形としてつないでいくことを目指します。

表 3.3.4 次の開催地へ脈々とつないでいくレガシー

	次の開催地へ脈々とつないでいくレガシー
1	まちづくり
2	自治体間や区内外の団体間交流の拡大
3	その時代の最新テクノロジーの検証

第4章 基本計画内容

4-1 開催会場

(1) 開催エリア

開催会場は特定の施設に限定するのではなく、区民との協働によるオールかつしかの開催を目指します。葛飾区全体を5つのエリアに分け、全てのエリアにおいて、みどりと花のプレゼンテーションやにぎわいづくり、区民参加の仕掛け等を設置します。

エリアには葛飾区ゆかりのキャラクターを冠して、葛飾区ならではの会場づくりを行います。

表 4.1.1 開催エリア

1	メインエリア	新宿、金町、水元を中心とするエリア
2	こち亀エリア	亀有、お花茶屋を中心とするエリア
3	翼エリア	四つ木、立石を中心とするエリア
4	寅さんエリア	柴又を中心とするエリア
5	モンチッチエリア	新小岩を中心とするエリア

(2) 堀切菖蒲園

区の花である花菖蒲を堪能できる堀切菖蒲園で、地元の方とともに来場者をおもてなしします。

4-2 開催期間

花菖蒲の開花に向かう時期に合わせて設定します。

開催期間：令和8（2026）年5月16日（土）～6月14日（日）予定

4-3 『全国「みどりの愛護」のつどい』

上記開催期間中の1日については、毎年開催されている『全国「みどりの愛護」のつどい』を開催します。

4-4 来場者数（予測値）

例年葛飾区で開催される主なイベントの来場者数をもとに本フェアの来場者数を100万人と算出します。この来場者数予測をベースにエリア内の運営やエリア間の交通、会場設備や花装飾等の調達といった事項の基本方針を定めます。

表 4.4.1 葛飾区内で開催される主なイベントの来場者数

	イベント名称	開催期間（令和5年度）	来場者数（令和5年度）
1	葛飾納涼花火大会	1日（平日開催）	約770,000人
2	葛飾菖蒲まつり	21日間（2会場）	約413,500人
3	寅さんサミット	2日間（土日祝開催）	約85,000人
4	かつしかフードフェスタ	2日間（土日祝開催）	約78,000人

第5章 会場計画

5-1 考え方

葛飾区を熟知しているガーデンデザイナーと区が連携して、区民の意見を聞きながら、区民と共に本フェアの開催テーマである「未来に向け成長する みどりと花のまちかつしか」の実現に向けて会場計画をつくりあげていきます。また、みどりと花を通して、人と人とが交流し、絆を深め、強いコミュニティを形成することを重点に置き、そのコミュニティが、様々な社会課題を解決し、持続可能なまちづくりの推進に寄与できるよう計画します。

そして、開催エリアごとの魅力や特色を活かし、区民、企業、地域団体等と連携・協働して地域の課題解決や魅力向上に向けた取組を各エリアから発信します。

また、最新テクノロジーを利用しエリア間を連携させることで、会場間の移動を容易にし、活発な参加を促すことを目指します。

5-2 会場構成

本フェアの会場は、葛飾区全体を包括する広域での展開とし、「メイン会場」と「サテライト会場」で構成します。

「メインエリア」の会場として、「葛飾にいじゅくみらい公園」を設定し、そのエリア内にある「都立水元公園」と連携して構成します。

「メインエリア」以外のエリアでは、「サテライト会場」を設置し、「メイン会場」と「各サテライト会場」を連携させ、周遊を促し、集客及び各エリアで行う行催事を波及させます。

また、エリア内の主要なスポットでは色とりどりの花装飾を施し、来場者をおもてなしします。

『全国「みどりの愛護」のつどい』は、「葛飾にいじゅくみらい公園」と「東京理科大学」の施設を実施会場として設定します。

また、本フェアを契機に持続可能なまちづくりを推進していくため、フラワーメリーゴーランドのさらなる活用や公園の基盤・植栽整備等の検討も行います。

図 5.2.1 会場全体マップ



(1) メインエリア

「未来に向け成長する みどりと花のまち かつしか」を発信する際の起点となるエリアづくりを行います。本フェア全体を包括するメインステージを設け、オープニング、クロージングのイベントをはじめ様々なコンテンツの実施や各サテライト会場との連動施策等を展開します。

ア. 葛飾にいじゅくみらい公園

区立公園として区内最大の広さ（面積約 7.1 万㎡）を有し、「東京理科大学葛飾キャンパス」を囲む水と緑豊かで明るくにぎわいのある公園として、多くの方々に利用されています。数多くの植物や修景池等があるほか、最寄り駅からの利便性も高く、各種イベントが実施される十分な空間も有していることから、本フェアのメイン会場に相応しい公園となっています。

公園エントランス周辺は、メイン会場として本フェアを象徴するような花の装飾を施します。

図 5.2.2 葛飾にいじゅくみらい公園 会場イメージ



イ. 都立水元公園

都立水元公園は、葛飾にいじゅくみらい公園と同エリアに存在し、小合溜（こあいだめ）に沿って造られた、都内で唯一水郷の景観を持った公園です。広大な敷地を有しているとともに、様々な目的で区内外の数多くの方々が来場される公園であり、集客効果が期待できるため、本区が主体となりメイン会場と連携して本フェアを盛り上げていきます。

ウ. 『全国「みどりの愛護」のつどい』の会場

『全国「みどりの愛護」のつどい』の会場は、本フェアのメイン会場である「葛飾にいじゅくみらい公園」と、同公園に隣接しキャンパスを構える「東京理科大学」の施設を実施会場として設定します。

(2) こち亀エリア

「亀有リリオパーク」を中心のサテライト会場に設定します。「亀有リリオパーク」は常設のステージがあり様々なイベントが行われ区民の憩いの場として親しまれています。また、駅前立地のため集客が見込めます。

曳舟川親水公園、お花茶屋を結ぶ動線をつくることで、当エリア内の回遊性を高めることを目指します。

(3) 翼エリア

「渋江公園」を中心のサテライト会場に設定します。「渋江公園」は『キャプテン翼』のキャラクター銅像もあり、多くの子どもたちに親しまれています。またイベント会場として、集客に十分なスペースが確保できる芝生広場を兼ね備えています。

エリア内にある区民の憩いの場となっている中川親水テラスへの動線づくりも行います。

(4) 寅さんエリア

「柴又公園」を中心のサテライト会場に設定します。「柴又公園」は地域の特色ある景観の保全と活用を目的とした歴史公園であり、区の観光名所の1つとして近代和風建築と純和風庭園が特徴の「山本亭」や映画『男はつらいよ』の世界観を楽しめる「葛飾柴又寅さん記念館」があります。また、江戸川河川敷は区内外の人々にレクリエーション、スポーツの場として親しまれています。

当エリアには、日本を代表する景観地として国の重要文化的景観に選定された「葛飾柴又の文化的景観」があり、柴又帝釈天や柴又帝釈天参道はその重要な構成要素として評価されています。フェア来場者が地域の歴史や文化、魅力に触れられるよう、当エリア内の回遊性を高めることを目指します。

(5) モンチッチエリア

「新小岩駅南口駅前広場」を中心のサテライト会場に設定します。新小岩駅は葛飾区内で乗降客数が最も多く、「新小岩駅南口駅前広場」はにぎわいと活気にあふれています。また、当エリアは、50年にわたり、世界中から愛され続けているキャラクター『モンチッチ』の誕生の地であり、『モンチッチ』に会える公園として知られる「モンチッチ公園（西新小岩五丁目公園）」もあります。

周辺の商店街への動線をつくり、当エリア内の回遊性を高めることを目指します。

(6) 堀切菖蒲園

「堀切菖蒲園」は江戸古花を中心に約200種、6,000株の花菖蒲が植えられており、見ごろを迎える5月下旬から6月中旬（本フェアと同時期）には、都立水元公園とともに「葛飾菖蒲まつり」が開催され、葛飾区の観光名所の一つとなっています。

フェア来場者が、区の花である花菖蒲の魅力に触れられるよう、本地域への回遊性を高めていきます。

5-3 「まちなか花いっぱいプレイス」

(1) 区民の花壇

「花いっぱいのまちづくり推進プロジェクト」で展開する区内全域に点在する130以上の区民団体が活動している150か所以上の花壇を中心に、来場者をおもてなしします。そして本フェアを契機に、葛飾区の「快適で美しい環境づくり」を区内外へ広く周知し、あわせてより多くの企業、地域団体の参加拡大を目指します。

(2) 区内の花の名所

本フェアでは奥戸ローズガーデンや小菅西公園の花時計などの公園や花の名所を取り上げ、来場者に区内にある花の魅力に触れてもらいます。

写真 5.3.1 区民の花壇



写真 5.3.2 奥戸ローズガーデン



5-4 エリア間の連携

「みどりと花のミライまちづくり」の実現に向け各エリアが連携した取組を来場者に実感してもらう情報提供サービスとして最新テクノロジーを活用したプラットフォームを構築し、エリアを跨いだ区内回遊型プログラム、各種行催事の開催情報、会場内や交通機関等の混雑情報等を発信します。

各エリアのステージイベントではエリアをつないだ中継を取り入れ、エリア間の連携と本フェアの一体感を演出します。

第6章 出展展示計画

6-1 考え方

本フェアの開催テーマである「未来に向け成長する みどりと花のまち かつしか」を発信するために、多種多様な企業・団体・区民が参加しやすいテーマのもと、主催者展示と協働展示の区分を設け、最新の取組や活動のショーケースの場を設置します。葛飾区の自然と文化、みどりと花に関する様々な活動を通して、来場者や関係団体が、共に感じ、考え、行動するきっかけをつくります。

葛飾区内は、日常的に川が見える風景が広がっており、まちには昔ながらの人情味あふれる暮らしがあり、人と人との結び付きを大切にする地域性が強く保たれています。

こうした地域特性を活かしたショーケースを実用化し、未来の葛飾区にレガシーとして引継ぎ遺していくものとなるよう展示計画を立案します。

6-2 主催者展示

葛飾区の取組である「花いっぱいのもちづくり推進プロジェクト」や「みどりと花のミライまちづくり」等の本フェアにかかわる展示を行います。

また、独自に開発したフラワーメリーゴーランド（立体花壇）を区民との協働で、森のように多数展示することで、葛飾区のみどりと花にかかわる取組を象徴的に表現します。

写真 6.2.1 「かつしか花いっぱいのもちづくり」活動内容の展示イメージ



図 6.2.1 「フラワーメリーゴーランドの森」展示イメージ



6-3 協働展示

開催テーマに基づき、多種多様な団体や企業に出展募集します。また来場者の興味やニーズに合わせた出展内容にすることで、本フェアの統一感を高め、出展者のみならず主催者、来場者等の一体感も高めます。これらの協働展示により、新たなコミュニティを形成し、本フェア終了後も活動や交流等の継続を目指します。

表 6.3.1 協働展示のイメージ

	イベント	イメージ
1	最新テクノロジーのショーケース	みどりと花のミライまちづくりを標榜した最新テクノロジーをショーケースとして展示する <ul style="list-style-type: none"> ・フラワーメリーゴーランドへの情報発信等の新機能搭載 ・最新テクノロジーを活用した新たな情報共有の仕組みづくり ・オフグリッドの新技术を活用したライトアップ実験
2	移動型ショーケース	Z E H (Net Zero Energy House) ※を目指したモデルハウスをトレーラーに搭載し、移動型ショーケースとして区内を巡回させる

※：Z E H

Net Zero Energy House (ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス) の略語で、家庭で使用するエネルギーと、太陽光発電等で創るエネルギーをバランスして、1年間で消費するエネルギーの量を実質的にゼロ以下にする家のこと

経済産業省 HP より引用：

<https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/johoteikyo/zeh.html>

第7章 行催事計画

7-1 考え方

行催事は、本フェアの開催テーマを発信するステージイベントや区民参加型のプログラムにより、みどりと花を中心とする葛飾区の魅力や、環境保護の価値を伝えることで地域の活性化を目指すものとします。行催事の内容については、区政が掲げるビジョンとして重要な「ゼロエミッションの推進」「産業の活性化と創出」「安全・安心のまちづくり」のもと、来場者と区民・企業・団体がともに「認識し、行動し、学びを得る」ことにつながるよう計画・実施します。

7-2 主たる行事

主催者が中心となって執り行う記念式典行事やセレモニーを計画します。

(1) 『全国「みどりの愛護」のつどい』

式典には全国の公園緑地等の愛護団体や地域の緑化・緑の保全団体等の緑の関係者が一堂につどい、広く都市緑化意識の高揚を図ります。そして花と緑の愛護に顕著な功績のあった民間の団体に対し、その功績をたたえ緑化推進活動の模範として表彰します。その他に、記念植樹、記念レセプション等を行います。会場は、葛飾にいじゅくみらい公園及び隣接する東京理科大学の施設にて開催します。

(2) オープニング&クロージングセレモニー

ア. オープニングセレモニー

オープニングセレモニーでは、メイン会場を中心にしてサテライト会場と連携し、主催者・来賓・参加者を交え、「みどりと花のまち かつしか」の未来を展望し、賑々しい開催を目指します。

イ. クロージングセレモニー

クロージングセレモニーでは各催事の成果を共有し、各団体等と参加者が形成したコミュニティが、今後も未来のまちづくり活動を継続することを確認して本フェアを締め括ります。

図 7.2.1 オープニング&クロージングセレモニーのイメージ



(3) プレイベント

開催1年前に本フェアの周知徹底、機運醸成を図るためのイベントです。プレイベント実施時に、花・植栽の生育状況を入念に検証することで、本フェア本番の花・植栽の生育状況をベストな状態にすることを目指します。

7-3 区民参加型の催事

来場者と区民・企業・団体がともに「認識し、行動し、学びを得る」催事を計画します。

(1) 区内回遊型プログラム

観光促進のためのプログラムです。葛飾区全域にわたる行催事を来場者が効率良く回遊しながら、様々な葛飾区の魅力を体感できる施策を計画します。

表 7.3.1 区内回遊型プログラムの取組イメージ

	イベント	イメージ
1	軒先園芸コンテスト	区民参加による、建物の軒先を活用した園芸コンテストを開催し、協働参画意識の醸成と回遊促進につなげる
2	区内周遊ツアーアプリ	AIを活用したエージェント機能を搭載した区内周遊アプリを導入し、区民サービスとしての定着化も見据えて運用する フェアでは来場者サービスの一環として、会場間回遊型のゲームやクイズのほか、最適にパーソナライズしたナビゲーションやレコメンドを行う等、体験価値を高める

(2) ワークショップ型プログラム

「安全・安心のまちづくり」を自分事化するためのプログラムです。自然保護と都市防災に関するセミナーやワークショップを、各会場近辺で開催します。

表 7.3.2 ワークショップ型プログラムの取組イメージ

	イベント	イメージ
1	みどりと花の育成セミナー	品種ごとの育て方や、寄せ植え、ハンギングバスケット製作等の講習会や各種セミナーを開催する
2	みどりと花のアートセミナー	いけばなの展示やセミナー、フラワーアレンジメントのセミナーやワークショップを開催する

(3) 企業連携型プログラム

区内企業と連携して持続可能な都市生活の新しいモデルや最新テクノロジーを楽しく体験できる催事を開催します。

表 7.3.3 企業連携型プログラムの取組イメージ

	イベント	イメージ
1	中小企業連携企画	区内の中小企業と連携し、フラワーメリーゴーランド等を活用した各企業の PR やプロモーションの機会設定を検討します。
2	区内企業と連携したゲーム大会	区内企業の関連製品を使ったゲーム大会を開催し、幅広い世代への興味喚起を図る

(4) 文化・教育プログラム

シビックプライド^{※1}の醸成やシティズンシップ教育^{※2}のために、葛飾区の歴史や江戸期から連綿と伝わる伝統工芸の技を知ること、自然との共生の知恵を学びます。

※1：シビックプライド

都市に対する市民の誇りのことであり、単なるまち自慢や郷土愛ではなく、「ここをより良い場所にするために自分自身がかかわっている」という当事者意識に基づく自負心のこと

伊藤香織「シビックプライドを醸成するまちと市民の接点」、

公益財団法人日本都市センター・戸田市編集 住民がつくる「おしゃれなまち」

－近郊都市におけるシビックプライドの醸成－

(公益財団法人日本都市センター：令和元（2019）年）89ページより引用

<https://www.toshi.or.jp/app-def/wp/wp-content/uploads/2019/03/report180.pdf>

※2：シティズンシップ教育

国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動していく主権者を育てること

文部科学省 HP より引用：

https://www.mext.go.jp/content/1421971_03.pdf

表 7.3.4 文化・教育プログラムの取組イメージ

	イベント	イメージ
1	花菖蒲に関するイベント	フェア開催期間中に葛飾菖蒲まつりが開催されることから、区の花でもある花菖蒲について学べる機会を設ける
2	昭和レトロイベント	葛飾区ならではの景観を利用し、昭和レトロをテーマとした花装飾や様々なイベントを開催する
3	友好都市との交流イベント	友好都市との交流イベントとして、既存のイベントと連携した企画を検討する

(5) 参加体験型プログラム

来場者が「花いっぱいのもちづくり推進プロジェクト」活動に参加して、区内各所の花壇やフラワーメリーゴーランドのお手入れや植え替え等を体験します。

表 7.3.5 参加体験型プログラムの取組イメージ

	イベント	イメージ
1	みんなで作る フラワーキャンパス	区民との協働でつくりあげ展示するフラワーキャンパスを展開し、協働参画意識を醸成する

(6) キャラクター関連イベント

各エリアゆかりのキャラクターの演出で、「みどりと花のミライまちづくり」の在り方をメッセージするイベントを開催します。葛飾区の歴史・文化に加え、ゼロエミッションの推進や産業の活性化と創出を呼びかける内容も盛り込みます。

表 7.3.6 キャラクター関連イベントのイメージ

	イベント	イメージ
1	葛飾区の代表的 キャラクターを 活用したイベント	葛飾区にゆかりのあるキャラクターを集め、フェアのコンセプト発信などにより、フェアの盛り上げを図る
2	公園や河川敷での キャラクター 花壇アート	公園や河川敷を活用し、キャラクターを描く大きな花壇アートを制作・展示する
3	既存イベントとの コラボイベントの開催	葛飾区で開催されている既存イベントとのコラボレーションによる各種イベントの開催を検討する

(7) 公用地中心プログラム

公用地を、地域の課題を自分事化する空間としていく先進的取組事例を紹介します。

表 7.3.7 公用地中心プログラムの取組イメージ

	イベント	イメージ
1	かわまちづくりとの連携	河川空間を活用したオープンカフェやキッチンカーの出店等を検討する
2	川から見る花装飾の船旅	河川の周辺に施される花装飾を、船上から楽しむと同時に舟運の歴史や可能性も学ぶことができるツアーの実施を検討する
3	花苗の栽培実験	活用されていない土地等を活用して、ビニールハウスで葛飾産花苗の栽培実験の実施を検討する

(8) マルシェ型プログラム

園芸関連商品や伝統工芸品、区内事業者のアイデア商品を含め、本フェアでしか手に入らない特別なアイテムや生産者・クリエイターとの出会いの機会を創出するために、マルシェ・バザー・フードコート等を開催します。

表 7.3.8 マルシェ型プログラムの取組イメージ

	イベント	イメージ
1	みどりと花のマルシェ開催	花や多肉植物、園芸雑貨等の販売に加え、ワークショップも行う「みどりと花のマルシェ」を開催する
2	花で装飾したテーブル設置によるフードコート	花で装飾したテーブルを会場内（フードコート等）に設置し、来場者がコミュニケーションをとりながら飲食できる空間を提供する
3	レトログルメストリート	葛飾区ならではの景観を利用し、区内飲食店等とも協力し、昔懐かしい昭和を味わえるレトログルメストリートを展開する
4	花装飾を施したカフェの出店	花の装飾で有名な英国ロンドンの「チャーチルアームズ」のような花装飾を施したカフェを地域と連携して出店する

第8章 会場運営計画

8-1 考え方

本フェア及び『全国「みどりの愛護」のつどい』は、地元住民を考慮した会場運営計画を策定し、環境に配慮した会場運営を行います。

本フェアが葛飾区全域を会場として行われる大型イベントであることを強く意識し、災害・テロ等の有事の際の対応や、通常警備・重要行事の身辺警護等を想定し、関係機関と連携しながら安全・安心な会場運営計画を策定します。

また、障害者や高齢者、外国人等の様々な来場者が各会場で快適に過ごせるような会場運営を目指します。

8-2 運営体制

(1) 多様な主体による運営

様々なボランティアが参加できる会場運営の基本体制を計画します。「花いっぱいのみちづくりに参加するボランティア」「一般区民（自治体・商店街・学校を含む）」「区民外ボランティア」等、各種ボランティアと一体となって、区民、及び同じ思いを持つ区外の一般市民も組織内で活動できる仕組みづくりを行います。

(2) 環境に配慮した運営

既存の施設によるインフラを活用することを基本としつつ、上下水道利用の節減や雨水利用の導入等の資源循環・再利用を検討する等、環境負荷低減に配慮した会場運営計画を策定します。また、グリーンインフラ^{*}を積極的に活用した持続可能な葛飾区のみちづくりに貢献していきます。

※：グリーンインフラ

持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進めるために、社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能（生物の生息・生育の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を活用すること

国土交通省 HP より引用

https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_fr_000143.html

8-3 会場管理・リスクマネジメント

会場管理・リスクマネジメントにおいては、綿密な会場下見と来場者予測調査のもと会場運営計画（ゾーニング、レイアウト等）を作成し、消防・警察・関係各所と緊密な連携を図り、犯罪、事故等をはじめとする多様なリスクを想定した警備体制や会場運営計画を構築します。

また、事件事故の未然防止のための対策マニュアルを作成し、全ての関係スタッフに徹底した教育訓練を実施します。

（1）警備計画

警視庁及び関係機関と緊密に連携をとり、警備・警護にあたります。本フェア開催期間中の警備スケジュールを定めて警備を行うとともに、会場の各施設の管理点検、交通整理、参加者の誘導に当たり、雑踏事故、交通事故その他の事件事故防止に努めます。

また、会場内における禁止事項を定め、警視庁との連携のもと、治安の維持に努めます。

（2）消防・防災計画

会場内は、喫煙所を除き全て禁煙とし、会場内には消火器を設置します。会場内での火器使用については管理を徹底し、異常事態の早期発見・通報に努めます。また、消防及び関係機関と連携し、火災や大規模地震、台風等、様々な災害を想定し来場者を安全に避難・誘導する避難計画を作成します。

（3）医療・救急・衛生計画

会場内に応急処置機能を有する施設を設置し、救護人員を配置します。会場内だけが人や急病人が発生した際のマニュアルを作成するとともに、近隣の医療施設と連携し、円滑な救急搬送や傷病者対応ができるよう計画します。

（4）清掃・リサイクル計画

快適で美しい会場環境のために、速やかに清掃・撤去を行えるスタッフ体制を構築し、リデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生利用）の「3R」による環境に十分配慮した計画を策定します。また、会場内の美化と葛飾区が掲げる「ゼロエミッションの推進」の理解促進を図るため、本フェア開催に当たり発生するごみの量を削減するとともに、「自分のごみは自分で持ち帰る」等、環境意識高揚のための啓発活動を行います。

第9章 広報宣伝計画

9-1 考え方

広告宣伝・広報活動を通じて、区民・ボランティア団体・来街者・来場者・事業者・自治体等（以下「参加者」という。）を対象に、本フェアの開催テーマや開催目的の理解促進を図り、参加意欲を喚起することで、本フェアへの出展や協力、来場を促し、参加者間の関係構築、及びコミュニティの形成を目指します。

9-2 フェーズごとのコミュニケーション活動

(1) フェア開催前

フェア開催前は、本フェアの認知拡大の周知活動として、本フェアの情報を随時発信する公式ホームページ・SNSの運用やポスターの掲示、チラシの配布を行います。

また、公式ロゴマークや公式マスコットキャラクターの制作、公式アンバサダー等によるプロモーション活動、開催1年前のイベント実施、様々なメディア誘致活動を行い、区民や関係団体の機運醸成や協力体制の構築を図ります。

(2) フェア開催中

フェア開催中は、会場内の様子や行催事、各エリアの魅力的なコンテンツ等を公式SNSや各種メディアを通して区内外に向けて発信し、来場意欲の喚起と継続的な来場を促していきます。

(3) フェア閉会后

フェア閉会后は、本フェアを通じて形成された、社会課題を解決する事業モデルが「葛飾区方式」として近隣区や全国のモデルになっていくよう、区民や関係団体のみならず、全国の自治体に向けて広く発信します。

図9.2.1 フェーズごとのコミュニケーション活動



9-3 コミュニケーションツール

(1) 公式ロゴマーク等の制作

公式ロゴマークは、本フェアのシンボルとして開催テーマに則したデザインで制作します。あらゆる露出機会やツールで使用していくことで、本フェアへの理解や共感を促していきます。

(2) 公式マスコットの制作

葛飾区内の関係団体に協力を仰ぎ、本フェアのオリジナルマスコットキャラクターの開発・製造・販売を行います。

公式マスコットキャラクターを開発することにより、本フェアの認知と好感度を獲得し、本フェア終了後も「花いっぱいのみちづくり推進プロジェクト」のシンボルキャラクターとして活用することで、レガシー化を目指します。

(3) 公式アンバサダーの検討

本フェアの魅力を広く発信していく役割を担う公式アンバサダーを任命します。アンバサダーには、幅広いターゲットを踏まえ、様々な分野から訴求力のある著名人を選定し、様々な広報・プロモーション活動を展開していきます。

(4) メディアを活用した認知拡大

本フェアの活動を効果的に伝えるため、行催事の事前情報や開催中の様子、事後の活動報告を適時、公式SNSや各種メディアを通して発信します。

公式ホームページは多様なステークホルダーに対する効果的な情報プラットフォームとし、更新情報を各種メディアでの広告宣伝や公式SNSアカウントの運用により紹介、幅広い層への情報発信を行います。

(5) 様々なコミュニケーション機会の活用

本フェアの認知、参加、来訪意欲向上のため、各種イベント、ワークショップの開催等フェーズごとにコミュニケーション手法を変更し、マスメディアやSNSを通して発信します。

また、全国で行われる同種のイベントや取組と連携した周知・プロモーションを計画・実施します。

その他、2027年に横浜にて開催予定の「2027年国際園芸博覧会」の事前周知活動とも連携します。

第10章 調達計画

10-1 考え方

本フェアに必要な資材や設備、特に植物の効率的で安定した調達に向け、花苗の綿密な育成計画や、区内事業者や関連施設、大学等を中心とした調達先を検討します。

また、区民参加の仕組みを導入することで、地域コミュニティの活性化にもつなげます。

10-2 植物調達計画

開催期間に照準を合わせた花の開花に向け、綿密な花苗育成計画を策定します。

本フェアでは、区花でもあり開催期間中に葛飾菖蒲まつりが開催されることで注目される花菖蒲と、フラワーメリーゴーランドやフラワーキャンパス、まちなかでの様々な花装飾に主に利用される花きや草本類、その他の樹木類等の植物を利用します。

これらの植物を地元企業や大学等と連携して計画的に育成、収穫することに加え、花市場や近郊の生産者からの調達ルートも確保します。

また、適切な残渣処理等、環境に配慮した計画を策定します。

(1) 花苗の育成・収穫

本フェアの開催期間に照準を合わせた各種花き類の開花に向け、関係機関と連携した綿密な花苗育成計画を策定します。

ア. 花菖蒲

堀切菖蒲園において、品種ものを可能な限り確保し本フェアへの活用を図ります。また、東京都と連携し都立水元公園園場での大株の生育を行い本フェアへ活用します。

写真 10.2.1 花菖蒲



イ. 花き・草本類

大学や民間種苗メーカーでの計画生産及び生産者との連携により、本フェアの開催期間に合わせた大株の生育を実施します。

写真 10.2.2 ペチュニア



(2) その他主な調達ルート

東京都心部は、日本を代表する卸売市場である大田市場を中心とした各花市場からのアクセスも良く、近郊にも多くの生産者がおり、流通のルートも確立しています。

そのため、本フェアでは、こうした地の利を活かし、市場や近郊生産者からの調達ルートを中心に、必要となる植物の効率的で安定した調達を目指します。

(3) 区民参加の仕組み

フラワーメリーゴーランド協議会のメンバーを中心に、花装飾の資材開発に取り組みます。また、新たに区内の施設、地域の方々からの参加を広く募り、花のお手入れ等ができる体制づくりを行います。

本フェアを通じて、地域の方々が新たなコミュニティを形成し、みどりや花についての知識を深めることで、本フェア終了後も、花のお手入れを通じた絆づくりによる葛飾区ならではのまちづくりの浸透につなげます。

写真 10.2.3 葛飾区民・ボランティアの花の活動風景



写真 10.2.4 フラワーメリーゴーランド



10-3 関連資材調達計画

本フェア開催に必要なイベント関連資材・備品等の調達に当たっては、区内や近隣区のイベント関係事業者や、関係資材やサービスを提供する事業者に協力を依頼します。

それらの事業者に対しては、リデュース、リユース、リサイクルの「3R」を意識した資材調達、廃棄物の削減や適正な処理等、環境への配慮についても協力を仰ぎます。

第11章 交通輸送計画

11-1 考え方

本フェアは、メインエリアとサテライト会場を起点として葛飾区全域で実施される都市型イベントのため、渋滞や事故等の混乱を回避するために、公共交通機関の利用を前提とします。また、最寄り駅から安全・安心に移動できるよう、花装飾の目印や先端技術を用いた誘導サイン等を活用した徒歩によるアクセスルートを整備します。

各エリアでは、みどりと花で装飾された葛飾のまちを楽しみ、歴史や文化に触れながら会場を移動できるよう、来訪者のエリア間移動をスムーズにする交通サービスを検討します。

11-2 都市型イベントとしての対応

都心部から千葉県方面を結ぶJR線（常磐線・総武線）や京成線により、多くの来訪者が予想されることから、交通各社からの情報や過去の類似イベント情報、位置情報サービス技術を活用した人流データ等に基づき、本フェア開催期間中の交通輸送計画を策定します。

事前に、本フェア開催期間中の交通サービスについて周知を行い、本フェア来場予定者に対して公共交通機関利用の呼びかけを行います。

地域の交通事情や様々な方が来場することを踏まえ、必要に応じて交通機関の増便や臨時バス停、臨時駐車場の設置、パークアンドライド[※]の導入、シャトルバスの運行等を検討します。

※：パークアンドライド

自宅から自分で運転してきた自動車をターミナル周辺に設けられた駐車場に置き、そこから公共交通機関を利用して目的地へ向かうシステムのこと

環境省 HP より引用：

<https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/h17/honbun.php-kid=222&bflg=1&rown=718&bakserial=22160.html>

1 1-3 会場へのアクセス計画

各会場の最寄り駅（金町駅、亀有駅、四ツ木駅、柴又駅、新小岩駅）から、メイン会場及びサテライト会場へのスムーズなアクセス計画を策定します。

（1）メインエリア

金町駅から葛飾にいじゅくみらい公園への徒歩によるアクセスルートを検討します。理科大学通りを通るアクセスルートは混雑が予想されることから、複数のアクセスルートを検討します。また、同エリアにある都立水元公園への移動手段としては、新たな交通サービスの導入を検討します。

（2）こち亀エリア

亀有駅前のサテライト会場（亀有リリオパーク）を起点とし、曳舟川親水公園までの徒歩によるアクセスルートを検討します。

（3）翼エリア

四ツ木駅からは、既に設定されている『キャプテン翼』の銅像巡りルートを活用した、サテライト会場（渋江公園）への徒歩によるアクセスルートを検討します。

（4）寅さんエリア

柴又駅からサテライト会場（柴又公園）への徒歩によるアクセスルートを検討します。柴又帝釈天参道を通るメインのアクセスルートは混雑が予想されることから、状況に応じて駅からサテライト会場への迂回ルートを設定し、誘導することも検討します。

（5）モンチッチエリア

新小岩駅前のサテライト会場（新小岩駅南口駅前広場）を起点とし、周辺の商店街等を活用するアクセスルートを検討します。

* 各エリア内移動について、シェアサイクルが便利に利用できるよう各サテライト会場付近や公園にサイクルポートの設置を検討します。

1 1-4 エリア間の移動

エリア間の移動には、既存の公共交通機関に加えて、新たな交通手段として環境に配慮したEVバス等の運行、シェアサイクルの活用を検討し、来訪者が葛飾区全域をスマートに移動し、楽しめる交通輸送計画を策定します。

第12章 協働推進計画

12-1 考え方

本フェアでは、葛飾区基本計画に位置付ける「協働推進プロジェクト」の考え方に基づき、多様な主体（区民、団体、事業者等）の「協働によるまちづくり」を押し進めることを目指します。

本フェアで形成された「協働」の意識やコミュニティを一過性のものとせず、持続的なまちづくりの仕組みとして浸透・定着させるために、フェア閉会後を見据えた、各種活動の基盤を構築します。

12-2 多様な主体との協働

葛飾区が進める「協働」は、区が団体や事業者などと特定の目的に向けた連携・協力だけでなく、多様な人や団体などが地域社会をより良くしようという思いを持って活動することそのものも含め、「協働」と位置付けています。本フェアでは、かつしか花いっぱいのみちづくり推進協議会や葛飾区緑化推進協力員会、区民、団体、事業者等によるコミュニティを構築し、それぞれの得意分野や魅力を活かしながら、共に本フェアをつくり、盛り上げていきます。さらに、フェア閉会後の継続したコミュニティによる「協働」につなげていきます。

12-3 活動基盤の構築

フェア閉会後も持続可能な枠組みづくりと、そのコミュニケーションを円滑にする環境を整備することで、強い活動基盤の構築を目指します。

（1）花のお手入れの仕組みづくり

本フェアにおいて、区民をはじめ様々な主体の参加を促し、花のお手入れの仕組みを計画します。活動に当たり、花を通して参加者間の絆づくりを図るとともに、育んでいく花の知識を紹介・共有していくことで、「みどりと花のみち かつしか」らしい、学びの機会も創出します。

また、本フェア会場で特設されたフラワーメリーゴーランドは区施設等に移設し、移設先のコミュニティで継続した花のお手入れができるようサポートを行う等、本フェア終了後にも花のお手入れを契機にコミュニティが活性化する仕組みをつくります。

本フェア開催中及び閉会後において、他自治体や区内外のボランティア団体等との交渉によりフラワーメリーゴーランドの普及拡大を図ります。

写真 12.3.1 花のお手入れの仕組みづくり活動



(2) ICTを利用したコミュニティ運営

「協働」するコミュニティ間の情報提供や共有を円滑に進めるために、ICTを活用し、スケジュールやタスクの管理をはじめ、活動の際の意見や課題についても共有できる質の高いコミュニケーション環境を構築していきます。また、デジタル環境の活用が困難な方に対しては、コミュニティ内グループでフォローしていく等のサポート体制を準備します。

第13章 飲食・物販計画

13-1 考え方

本フェアの開催テーマである、「未来に向け成長する みどりと花のまち かつしか」の実現に向け、区民、事業者、関係団体と協働し、葛飾区内の特産物・特産品の認知拡大を目指します。また、「みどりと花」に関する物販も計画し、この飲食・物販を通じて本フェア参加者に「みどりと花」の魅力を伝えることにより、コミュニティ強化を図ることも目指します。

13-2 特産物・特産品の販売

事業者、関係団体と調整のもと、葛飾区内の企業が製造・販売している玩具や日用品、また、伝統工芸品、そして「葛飾元気野菜」の販売を行い、本フェア来場者に葛飾区特産物・特産品のすばらしさを伝え、ファンになっていただくことを目指します。

13-3 「みどりと花」に関する物販計画

本フェアでは、「みどりと花」に直接関係する植物や園芸用品の販売も行います。物販スペースでは、ワークショップやセミナー等の実施も検討し、単なる物販に留まらない販売方法を検討します。

また、販売品のラインナップをより幅広く魅力的にするため、種苗ブランドのみならず、園芸ファンに人気のガーデングッズ等を取り扱う様々な販売事業者に参加を呼びかけることを計画します。

さらに、「マルシェ形式」（個人・生産者等の販売事業者が一つのスペースに集まって販売を行う形式）での物販も検討し、販売形態そのものにもイベント性を持たせることで、本フェア参加者に物販スペースを楽しんでいただくことを目指します。

図 13.3.1 マルシェ (イメージ)



1 3-4 飲食・物販における取組展開

(1) 安全・安心に向けた取組

飲食については、展開する会場やエリアの特性に合わせた、飲食スペースを検討します。飲食・物販スペースを設置する施設・エリア管理者と綿密な協議を行うことで、事故を防止する出店ルールづくりや動線設計等を行います。

また、保健所や消防等の関係団体と調整し、出店に伴う食品衛生管理や防火管理に関する計画を策定します。

(2) 地産地消に向けた取組

販売する飲食物や飲食メニューを選定・検討する際には、地産地消のために、葛飾産の野菜や加工品を使うことを目指します。

(3) 環境に配慮した取組

ゼロ・ウェイスト[※]の理念のもと、そもそもごみを出さないことを目指します。

飲食販売はスモールサイズを用意する等、食品ロスを出さない工夫を講じ、排出された生ごみについては、たい肥化する等、徹底的にごみゼロを推進します。

飲食・物販で使用する梱包材や容器等は、環境に配慮したリユースを基本とし、来場者にはエコバッグ等の利用を勧奨します。飲食で再利用可能な容器の開発、販売も視野に取り組みます。

また、飲食・物販スペースを設置する際に使用する資材については、可能な限り環境に配慮したエコ資材を使用するよう計画します。

※：ゼロ・ウェイスト

「ウェイスト (waste)」は英語で「無駄」や「浪費」を意味する言葉であり、「ゼロ・ウェイスト」は、無駄や浪費をなくしてごみを出さないことを意味する

環境省 HP より引用：

https://www.env.go.jp/policy/kihon_keikaku/goodlifeaward/report201801-zerowaste.html

第14章 事業推進計画

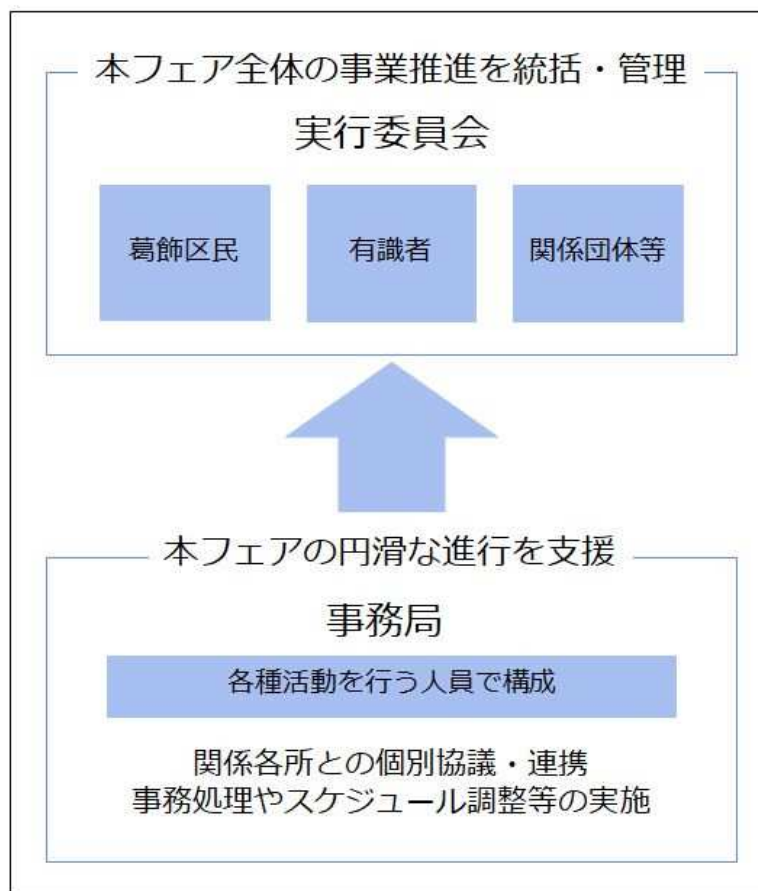
14-1 考え方

本フェア全体の事業推進を統括・管理する準備組織である「実行委員会」と、それを支援する「事務局」を設置します。

実行委員会は、本フェアの多岐にわたる事業分野（行催事、会場運営・リスク管理、広報宣伝、調達、交通輸送、協働推進、飲食・物販等）を円滑に推進していくため、事業分野に関する情報や関係団体の意見を集約し、本フェアの各種準備、企画、全体管理や進行等を担います。

事務局は実行委員会の指針のもとに、事務処理やスケジュール調整等を行います。実行委員会と事務局の両輪からなる推進体制により、本フェアの円滑な進行や、『全国「みどりの愛護」のつどい』との連携を実現します。

図 14.1.1 組織図（案）



14-2 事業推進体制の構築

(1) 実行委員会の設置

実行委員会は、葛飾区民、有識者、関係団体等で構成され、委員会による会議は、事業推進スケジュールに基づき、定期的を開催します。

(2) 事務局の設置

事務局は、本フェアの開催に向けた各種活動を行う人員で構成され、本フェアの準備・運営に当たり、関係各所との個別協議・連携、事務処理等を行うため常時設置し、実行委員会をサポートする役割を担います。

14-3 全体スケジュール

令和8（2026）年5月に本フェアを開催するために、令和6（2024）年度半ばに実行委員会と事務局を設置し、令和6（2024）年度から令和7（2025）年度に実施計画と基本実施設計を策定します。

また、開催の1年前にはプレイベントを実施し、本フェアの認知向上や機運醸成を図ります。

フェア閉会后は、「みどりと花のミライまちづくり」の取組を葛飾区方式として、近隣区や全国自治体のモデルになるよう発信するとともに、本フェアのレガシー化を目指し、取組の継続・発展を推進します。

図 14.3.1 全体スケジュール（案）



第15章 事業効果の検証方法

15-1 考え方

開催テーマである「未来に向け成長する みどりと花のまち かつしか」のもとで、本フェアが地域価値向上にどの程度寄与したかの検証を本フェア閉会後に行います。効果検証を行う際には「協働」を意識し、来場者はもちろんのこと、本フェア開催にかかわった多様な関係団体を対象にすることで、開催、運営、来場等、多角的な視点での効果検証を目指します。

15-2 効果検証方法（案）

（1）効果検証の手法（案）

本フェア開催に向けて行った各施策及び、本フェア開催中の各施策の接触者や来場者数、行催事参加者数、飲食・物販の販売数、広報宣伝の接触者数等を把握します。

また、本フェアの来場者に対してアンケート調査を実施し、来場きっかけや満足度、態度変容等の意識の面でのマインド把握を行います。

同様に、ボランティア団体、行催事参加事業者、飲食・物販参加事業者等に対してアンケート調査を実施し、本フェアに対する評価を把握します。

表 15.2.1 効果検証の手法（案）

効果検証の手法（案）	
1	量的評価の把握（来場者数、行催事参加者数、販売数、広告接触者数等）
2	アンケート調査-来場者調査（来場実態、本フェア満足度等）
3	アンケート調査-運営者調査（本フェアに対する評価等）

(2) 効果検証の項目（案）

効果検証の項目（案）は次のとおりです。

表 15.2.2 効果検証の項目（案）

	効果検証の手法（案）	効果検証の項目（案）
1	量的評価の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・本フェア来場者数 → 交通量調査、人流データ等から推計 ・行催事参加者数 → 交通量調査、人流データ等から推計 ・飲食・物販の販売数 → 実販売状況から推計 ・広報宣伝の接触者数 → WEB広告のインプレッション数、クリック数 等 → 公式HPの閲覧数、セッション数、ユニークユーザー数 等 → 公式SNSのフォロワー数、投稿数、表示回数 等
2	アンケート調査 -来場者調査	<ul style="list-style-type: none"> ・来場日、来場会場、来場行催事、滞在時間 ・本フェア認知経路、来場きっかけ、来場手段 ・行催事満足度、運営満足度、本フェア全体の満足度 ・葛飾区に対する愛着度向上への寄与度 等
3	アンケート調査 -運営者調査	<ul style="list-style-type: none"> ・行催事参加満足度 ・本フェア全体の満足度 ・葛飾区に対する愛着度向上への寄与度 等



「全国みどりと花のフェアかつしか」基本計画

発行日：令和6(2024)年9月
発行：葛飾区 〒124-8555 東京都葛飾区立石 5-13-1
電話 03-3695-1111 (代表)
<https://www.city.katsushika.lg.jp/>
編集：葛飾区環境部環境課